

フィリピン 2012年10-12月期GDPは前年同期比+6.8%

ご参考資料 2013年1月31日

1月31日に発表されたフィリピンの2012年10-12月期の実質国内総生産(GDP)成長率は、前年同期比+6.8%となりました。引続き旺盛な内需がけん引役となって高い伸びが維持され、2012年通年の実質GDP成長率は前年比+6.6%となり、フィリピン政府の年間目標を上回りました。

フィリピン国家統計調整局(NSCB)が1月31日に発表した2012年10-12月期の実質国内総生産(GDP)成長率は、前年同期比+6.8%となり、7-9月期の同+7.2%から鈍化したものの、市場予想の+6.3%を上回り、高い伸びが維持されました。これにより、2012年通年の実質GDP成長率は前年比+6.6%と2010年(同+7.6%)以来の高い伸びとなり、フィリピン政府の2012年の年間目標値である5~6%を上回りました。

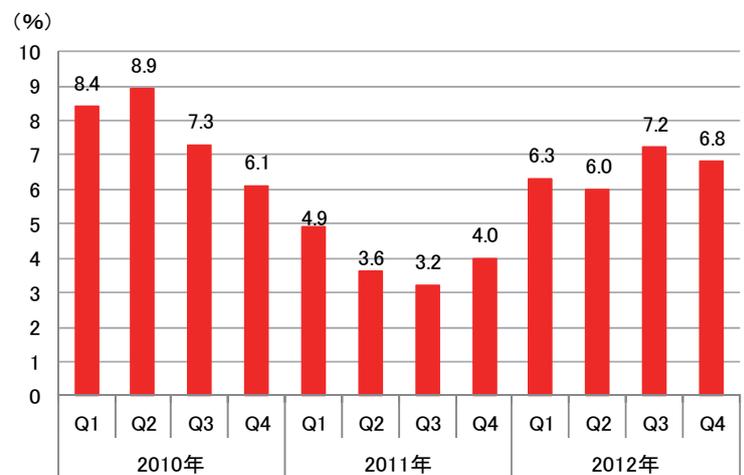
フィリピンの高い経済成長は、引続き堅調な個人消費や設備投資などの内需がけん引しました。GDPの70%以上を占める個人消費は前年同期比+6.9%と7-9月期の同+6.3%から加速し、設備投資は前年同期比+10.6%と7-9月期の同+9.0%から加速しました。また、政府支出は前年同期比+9.1%と7-9月期の同+12.0%から減速したものの堅調さを維持しました。

フィリピン国内の個人消費を支える海外就労者(OFW: Overseas Filipino Workers)からの本国への送金額は、2011年は年間で約200億ドル(約1兆8,300億円)、2012年(1~11月)は約194億ドル(約1兆7,700億円)と過去最高水準で推移しています。

項目別に見ると、引続きサービス産業が成長をけん引しました。中でも、商業、不動産、金融等の分野が好調となりました。また、旺盛な国内需要を背景に製造業や建設部門も大きな伸びを示しました。

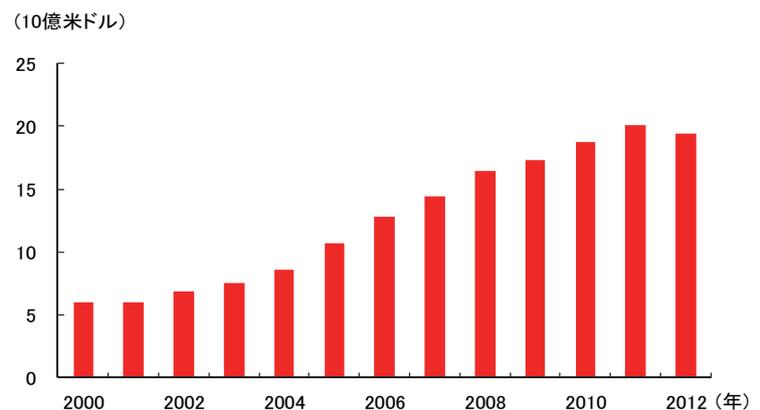
フィリピン政府は、強い内需に支えられて高い成長が持続されるとして、2013年の経済成長率が6~7%になると予想しています。

(ご参考①)フィリピンの実質GDP成長率の推移
(2010年~2012年、前年同期比)



出所: NSCBのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

(ご参考②)海外就労者(OFW)からの送金額の推移
(2000年~2012年)



※2012年は11月末までのデータ。

出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

※当資料は情報提供のみを目的とするもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とはなんら関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

130131(05)